

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	6 月	26 日	記入者	小倉つき子
調査者名	小倉	春日	仲谷	安川	

文化財名	西田中瓦窯				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	2017年(平成29)2月14日				
所在地	大和郡山市西田中町				
所有者 管理者	大和郡山市				
員数	瓦窯7基のうち4基発掘調査済				
時代区分	飛鳥時代				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	良好				
公開	常時				
保存状態	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	2004年に1～3号窯を、2013年に7号窯を発掘調査。窯は斜面地の傾斜に沿って、約6メートルのトンネル状に彫り込んで等間隔につくられていたようだが、すべて埋め戻されており、その跡を樹木で標している。2017年に指定されたばかりで、発掘をしていない部分も含めて全体を瓦窯跡として、手入れされた芝生が広がる公園のような史跡になっている。説明板が二か所あり、デザイン性に富み、内容も充実している。				
今後の課題	2007年から本格的な発掘調査が行われ、古代の官窯の実態を示す貴重な遺跡とのことだが、内部の「焚口」「燃焼室」などの発掘時の窯の状況がすべて埋め戻されているため、説明板の写真でしか様子がわからないのが残念だ。せめて1基だけでも実態がわかるような保存の形式にしてほしかった。				
その他 (由緒など)	窯の内部からは、失敗品として投棄された瓦が大量に出土。軒瓦は藤原宮で出土するものと同じ型で作られた複弁蓮華文軒丸瓦と偏向唐草文軒平瓦である。藤原宮殿造営の瓦生産実態を伝える貴重な遺跡である。				
コメント	案内板の写真を見る限りでは床面なども良好に残っており、4基のうち、1基だけでも埋め戻さずに上部に透明な強度な板で覆って発掘時の様子が分かるようにしてほしい。発掘された瓦などの資料室を敷地内に作ってほしい。西田中瓦窯から北へ50メートルの地に、西田中遺跡と称する7世紀後半の大型建造物群が発掘されている。西田中瓦窯の瓦の乾燥などのために建造された関連施設だと推定されている。両遺跡共に、関連遺跡が近くにあることの説明がないため、片方だけを見学する人が多いとのこと。幸い今回の調査では史跡ガイドがおられたので知ることができた。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	6月	26日	記入者	小倉つき子
調査者名	小倉	春日	仲谷	安川	

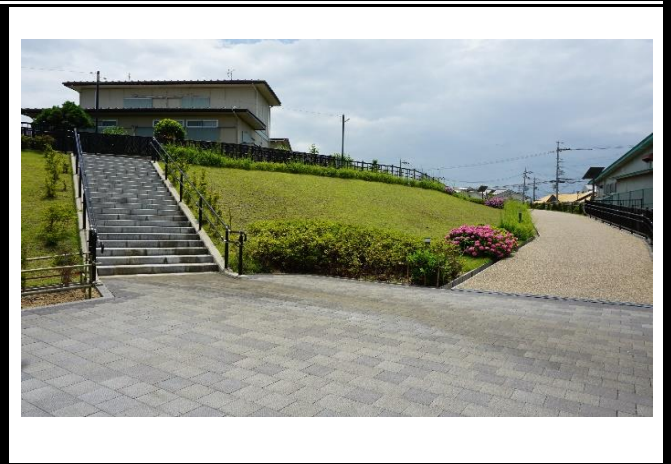
文化財名	西田中瓦窯
------	-------

史跡西田中瓦窯入口の瓦型モニュメント(南側)	説明板に記された案内図(北側)
------------------------	-----------------



等間隔に並ぶ4つの瓦窯跡を標す樹木(北側)

未発掘の瓦窯地(東側)



瓦窯発掘時の状態(説明板の写真)

瓦窯跡北50mにある、西田中遺跡

